

令和 7 年度

運営に関する計画・自己評価（中間評価）



令和 7 年 1 0 月

大阪市立塩草立葉小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標「共に学び、共に生きる子どもを育てる」～自分も人も大切にする～のもと、人権尊重を基盤とした教育活動を推進している。

統合から12年目。児童数は、統合時の241名から545名に急増している。中規模校になるにともない、さまざまな業務の見直しを進めていく必要がある。

また、増加している外国人児童や特別支援学級在籍児童への支援、多様性教育推進などを通じて、すべての子どもが健やかに成長するよう、全教育活動を通して取り組んでいる。

中期目標（令和4年度から令和7年度までの4年間で達成をめざす成果目標）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ①大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

→R4は、74.8%。R5は、73.3%。R6は、69.0%

- ②大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。

→R4は、78.6%。R5は、77.6%。R6は、76.6%

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

（令和4年度の対全国比→令和5年度→令和6年度）

算数 現6年	0.98→0.97→1.06	現5年	0.98→0.95→0.98
現4年	1.00→0.92→1.08	現3年	なし→なし→0.99

- ②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を前年度以上にする。

→R4は、68.9%。R5は、62.6%。R6は、68.2%

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

→今年度初めての目標設定。

R6は達成できなかったが、活用率は、昨年度を上回っている。

- ②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。

→R4、R5とも大阪市平均を下回り、達成した。

R6も大阪市平均を下回っており、目標を達成した。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ①大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

※R5は、73.3%。R6は、69.0%

- ②大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。

※R5は、77.6%。R6は、76.6%

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

- ②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を前年度以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

- ②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

大阪市立塩草立葉小学校

評価基準	A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--------------------------------------	--

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ①大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 ②大阪市小学校学力経年調査（3～6年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。	B20

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○いじめの未然防止と早期発見、早期対応をすすめる。	B31 C 1
指標 ・5月「いじめ・いのちについて考える日」に、全学級でいじめ防止に取り組む。 ・いじめ事象を共有し、解決に向けて組織的に取り組む。 ・学期に1回以上、全学級でいじめについて実態調査を行い、早期発見に努める。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自分や友だちの良さを認め合う取り組みを通して、自尊感情を高める。	A 1
指標 ・児童会のたてわり班活動や委員会活動で交流を工夫する。 ・自分や友だちの良さに気づき、一人一人を大切にすること、人権教育を充実させる。	B30 C 1

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・「いじめ・いのちについて考える日」に全学級で行い、いじめは許さないという空気をつくることができている。動画教材を取り入れ、考える時間をつくることできた。 ・チクチク言葉やふわふわ言葉を話し合ったり、学級会を活用してクラスについて考えたり、日々の学級指導に努めている。 ・一部の児童が、息を吐くように「死ね」と言うことがある。その都度指摘はしているが厳しい指導まではしていない。一度全校児童で考える日があってもいいかもしれない。 ・学年間で情報共有し、同担・管理職・養護教諭・支援・日本語指導など連携して取り組んでいる。 ・職会後の児童の共有、同担を中心とし、必要に応じた情報共有の場を設定している。 ・いじめアンケートや心の天気により、早期発見・対応につながっている。 ・実態調査後、一人ひとりと話す場を設け、個々が気になっていることを聞き出せた。その後、学級でも共有し、複数で見守る体制をつくっている。

取組内容②

- ・集会や今後のたてわり班の行事を行う予定もあり、達成できている。
- ・たてわり班活動や委員会活動により、異学年の交流が生まれてきている。また、関わりの中で高学年の児童が低学年児童を思いやる姿が見えた。
- ・今年度あいさつ運動の期間が1週間延びるなど、児童会が精力的に活動している。
- ・月に数回たてわり班活動ができている。また、異文化を知る活動もあり、自分や友だちのルーツを大切にできた。
- ・集会やたてわり活動で取り組んではいるが、他学年との関わりは少なく、効果が薄いように感じる。
- ・いい形で交流できていると思うが、遅刻が多い。
- ・せっかくの集会も後ろの方は指示が聞こえづらく、高学年も低中学年に声をかけづらそうにしている。
- ・帰りの会で良いところを発表する場を設け、自尊心が高まる様子が見られている。
- ・なかよし教室②を使用する際、他の児童も使用している状況を説明し、全員が心地よく過ごせる環境を作るようにしている。
- ・様々な困難さを抱える児童への理解をなかよし教室や学級内で深まるよう声かけをした。
- ・日々児童の頑張りを認める。
- ・なかよし学級では、なかよしタイムを行うことで一人一人の居場所となり環境づくりにつながっている。

次年度への改善点

取組内容①

- ・「いじめ・いのちについて考える日」を1学期に設定してから、2学期・3学期と何も取り組みがないので、子どもによっては意識が薄れている。その後にも各学期に「いじめ」に関する取り組みをつくる。また、繰り返し取り組みの経過を共有することで、学年を通した取り組みに繋げていく。
- ・ふわふわ言葉、チクチク言葉の他に、絶対に使ってはいけない言葉・気持ちの表し方について考える機会をつくる。
- ・心のノートを活用する。
- ・取り組みが学年・学級内で留まっている。子どもの共有と同様に月1ほどの共有することで、学年を通して、取り組みが繋がっていくきっかけになるのではないか。

取組内容②

- ・たてわり班活動が児童数の増加の影響で、全体で行うのが苦しくなっている（特に暑い時期など）より活発な異学年交流を今後も続けていくため工夫が必要。
- ・試行的に昼休みたてわり班を行う。
→生活指導部の中でまた話し合う。
- ・国際クラブやさまざまな国の学習も継続してほしい。
- ・外国ルーツ児童で日本語ができない子もいる中での活動内容を考えたい。
- ・集会環境を整える。
- ・困難さを抱える児童同士の他社理解を深め切れていないため、時間を作りたい。
- ・自分や友だちの良さに気づくために、学級によってよいところみつけやノートを上手にかけている友だちを掲示などをして工夫している。しかし、担任裁量のため学級の実態はあるが、程度がバラバラであるので一人一人を大切にする人権教育を充実(自尊心を高める)とはいえない。全学年でいいところみつけやたてわり活動の感想、ノート紹介など取り組んだ内容を玄関に飾るなど、全校児童が目に見えて人権教育を推進している(充実する)取り組みなどがあつた方がよい。

- ・同担からの同担通信など(塩草立葉について)の発信があったら人権教育にもつながる。
- ・人権教育を推進するためには、全員に児童共有をしてほしい。月に一度の共有だけではもれが出るので、要対協の記録以外にも生活指導や不登校・遅刻などの記録をいつでも見られるようにしてほしい。そのためには、管理職・同担・担任が把握した事案を、誰が入力してもよい SKIP などのいいところみつけなど活用して(会議室ではまとめしか載っていないので)その都度記録をしてどの教員も見られるように体制を整えてほしい。

評価基準	A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--------------------------------------	--

年度目標		達成 状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】		
①大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 ②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を上にする。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○自分の思いや考えを表現する子どもを育てる。 ○教員の指導力向上をすすめる。		B
指標 ・全学級で、話し合い活動を1日1回以上実施する。 ・全学級で、週に1回算数の朝学習に取り組む。 ・3～6年生において、年4単元以上総合的読解力育成カリキュラムに取り組む。 ・全教員が、年1回以上公開授業を行う。 ・区役所の教育活動支援事業を活用する。 日本語、登校支援、液晶ディスプレイ、漢字検定3年（目標合格率65%）		
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○運動に親しむ機会を設ける。		
指標 ・体力向上に関する取り組みを行う。（シナプソロジーなど） ・外部講師による特別授業を行う。（「夢・授業」や出前授業など）		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① ・児童の実態に応じた話し合い活動に取り組むことで、自分の思いや表現をすることが少しずつできるようになっている。 ・毎週火曜日に算数の朝学習を行うことを決め、プリントを配布して取り組んでいる。 ・年間指導計画をもとに、総合的読解力育成カリキュラムに取り組んでいる。 ・研究授業、公開授業を計画的に行うことで指導力向上に努めている。 ・3年生で漢字検定を行う予定になっている。（11月） ・日本語や液晶ディスプレイなど、区役所の支援事業を活用している。		

6

取組内容②

- ・シナプソロジー研修を実施し、各学級で取り入れたり運動遊びを紹介したりして体を動かす機会を設けている。
- ・プール水泳の期間を延長したことで、子ども達の体を動かす時間を確保することができた。
- ・「夢・授業」の実施を予定している。(11月)

- 取組内容②
- ・シナプソロジー研修を実施し、各学級で取り入れたり運動遊びを紹介したりして体を動かす機会を設けている。
 - ・プール水泳の期間を延長したことで、子ども達の体を動かす時間を確保することができた。
 - ・「夢・授業」の実施を予定している。(11月)

次年度への改善点

取組内容①	
取組内容②	

評価基準	A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--------------------------------------	--

年度目標	達成 状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○学習者用端末に親しむ機会を設ける 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材の活用をすすめる。 ・朝学習でデジタルドリル(ナビマ)を活用する。 	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○教員の過重労働を抑制する。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の改善、見直しを進める。 ・ゆとりの日を週1回設ける。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用している。 ・朝学習でするのはむずかしい。 ・「らっこたん」に取り組む学級が増えている。 ・授業中での活用より、隙間時間で取り入れる程度である。 ・デジタル教材は、大型テレビのない学級もあり、使用しにくい学級もある。 ・調べ学習をしたり、新聞を書く際に使用した。 ・アプリや教材など、利用方法や活用方法を研修してほしい。 ・学習が終わったらナビマを使い、復習できるようにした。 ・朝学習や隙間時間を利用して、タブレットを活用する時間を多くした。 ・sky menuを活用している。 ・朝学習より、授業内で用いている。 ・生活の授業内の観察等で用いている。 ・デジタルドリルの活用が全くできていない。 ○教科書や動画など、デジタル教材の活用は進んできている。 ○デジタルドリルは朝学習だけでなく、隙間時間や授業時間での活用も進めていきたい。 ○ナビマ以外のコンテンツ（らっこたん、sky menu など）も授業内で活用できるよう、研修の場などを設けたい。

取組内容②

- ・学校全体の業務内容としては減っているように感じる。しかし、日々の授業準備は減らないので、持ち帰りの仕事は増えている。
- ・早く帰宅するよう心掛けている。
- ・計画通り行えている。
- ・2学期初めの放課後、会議や検討会などが例年より多かった。
- ・改善できているかわからない。
- ・できるだけ授業内や空き時間に教材プリントの用意やコピーなどの授業準備を進めるようにし、5時以降仕事を残さないようにしている。
- ・業務内容の改善を校長を中心に進めている。
- ・ゆとりの日を週1回設けている。
- ・業務内容に偏りがみられる。・業務内容の改善を進めるべき。
- ・業務内容や研鑽等に関係なく6時になると強く、帰るよう声をかけられるので、持ち帰りの仕事や中途半端に残す仕事が多くなり、負担が大きくなる。
- ・教室掲示等を作る時間をあまり作れていない。

- 業務時間を減らすことはできている。
- 授業準備等に割く時間が削られているため、持ち帰りの仕事が多くなっている。
- 部会の定着など、業務内容や会議のあり方などを検討する余地がある。

次年度への改善点

取組内容①

取組内容②